

立教大学学術推進特別重点資金（立教 S F R）
大学院生研究
2003年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院			文学 研究科	比較文明学 専攻
指導教員	所属・職名		氏 名		
	文学部教授		小林 憲二 印		
自然・人文の別	自然	・ (人文)	個人・共同の別	(個人)	・ 共同 名
研究課題	映像アーカイブとは何か ―近代文化遺産の歴史と役割―				
研究代表者	在籍研究科・専攻・学年		氏 名		
	文学研究科比較文明学専攻3年		小泉 智佐子 印		
研究組織	在籍研究科・専攻・学年		氏 名		
研究期間	2003年度				
研究経費	200千円				

研究の概要 (200～300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

歴史史料、近代文化遺産として映像を収集・保存し、公開する取り組みを行っている映像アーカイブ。日本における映像保存の歴史的、思想的変遷をたどりながら、映像アーカイブは現代社会においてどのような文化装置として位置付けることができるのか。本研究は、映像とわれわれの日常社会との関わりを映像表現の分析によってではなく、映像の存在に焦点をあて考察することを目的としている。本年度は、立教 SFR の補助を受け、日本における映像アーカイブの現状を把握するため、地方の公営による映像アーカイブを訪問し、運営に携わる職員に聞き取り調査を行った。調査内容は1)設立の背景・経緯 2)運営組織 3)施設概要 4)収集・保存概要 5)公開状況 6)他の公共文化施設や商業施設との関係 7)今後の事業展開8)日本の映像アーカイブ全体に関する所感、である。調査の際は、映像アーカイブの歴史が、博物館、図書館の歴史と重なる部分も多いことから、他の公共文化施設との関わりにも注目した。以上の現状把握を通して、より多角的に文化装置としての映像アーカイブの社会的機能を検証・分析することが可能ではないかと考える。本調査の成果をもとに、さらに考察を進め、本年度提出の修士論文において本研究の全容を発表する予定である。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

{ 映像アーカイブ } { 映像保存 } { 近代文化遺産 }

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)**■ 研究主旨**

現在、日本にもいくつかの映像アーカイブが存在するが、歴史史料、近代文化遺産として映像を保存し、公開する取り組みについてはあまり知られていない。これまで日本において映像保存はどのように行われてきたのか。本研究は、博物館、美術館、図書館等での映像の扱いも参照しながら映像保存に関する思想の変遷をたどり、映像アーカイブが現代社会においてどのように位置付けられるか文化論的に考察することを目的としている。近年、映像アーカイブについては、経営学的な視点に基づくセミナー等が行われたり、論考等が発表されたりもしているが、そもそも映像保存を日本において行うということがいかなる意味を持つのか、という本質的な問題がなおざりにされていないだろうか。運営システムや事業の採算についての議論はもちろん重要であるが、そうした議論のみが先行し、映像保存の理念に関しての議論が深まらないことには少なからず疑問を感じる。歴史的パースペクティブのもと映像アーカイブの存在を位置付け直すことも必要ではないだろうか。映像アーカイブが単体で完結している施設と、博物館、美術館、図書館等の一組織と存在しているものがあるが、こうした状況は何を意味するのか。本研究ではこうした問題について考察を深めていくために、まず現状把握として国内の映像アーカイブを訪れ、見学・調査することを計画した。調査の内容は以下の「研究内容」とおりである。

■ 研究内容

1) 文献調査

まず、本研究を進めるにあたって必要となる基礎資料として、映像アーカイブに関係する領域の文献調査を行った。具体的には、博物館学、図書館学、文化行政、文化経済学等の文献と映像史に関する文献をあたり、映像保存に関する文献については、国内ではまだ本格的な学術研究が進められていないことから、アーキヴィストによって書かれた論文および報告書等を参照した。映像アーカイブが国内に作られる以前についてはフィルム・ライブラリー助成協議会(現、川喜多記念文化財団)の資料にあたるなどした。

2) 映像アーカイブ訪問調査

日本の映像保存施設がどういった理念・計画に基づいて建設され、今現在どのような活動が行われているのか。これらを文献資料のみから知るには限界があることから、地方のアーカイブを中心に施設を見学し、運営に携わる職員に聞き取り調査を行った。施設訪問の際は、近隣の文化施設も訪れ、映像アーカイブがそれぞれの都市空間において他の文化施設とどのような関係にあり、どのような役割を担っているのかといった位置付けを探るよう努力した。本研究調査では映像アーカイブをより多角的に検証するために、調査対象を映像アーカイブに限定せず類似施設も訪問し調査を行っている。以下、本研究調査で訪れた主な施設の一覧である。

- ・京都府京都文化博物館 映像部門(京都府京都市)
- ・神戸ファッション美術館(兵庫県神戸市)
- ・福岡市総合図書館 映像資料課(福岡県福岡市)
- ・財団法人 松竹大谷映画資料図書館(東京都中央区)
- ・財団法人 広島市文化財団 広島市映像文化ライブラリー(広島県広島市)
- ・せんだいメディアテーク(青森県仙台市)
- ・山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー(山形県山形市)

(上記以外にも、各施設の近隣の博物館、美術館、歴史史料館、アートセンターなども調査しているが、ここでは主要な調査施設のみを挙げ他は省略している。)

研究成果の概要 つづき

■ 調査項目

施設調査では、次の項目について聞き取り調査を行った。

- ① 設立の背景・経緯 ② 運営組織 ③ 施設概要 ④ 収集・保存概要 ⑤ 公開状況 ⑥ 他の文化施設や商業施設との関係
⑦ 今後の事業展開 ⑧ 日本の映像アーカイブ全体に関する所感

① 設立の背景…地方の映像アーカイブの存在意義それ自体に関わるのが設立までの経緯である。設立以前にどのような人々によって何を理想としてアーカイブが作られたのか聞き取りを行った。② 運営組織…現在の資格取得制度には内容的に問題があると考えているが、少なくともミュージアムには学芸員が、図書館には司書が存在し、それぞれ学問として研究が積み重ねられてきた。映像アーカイブで働く人々を総称してアーキヴィストと呼ぶことができるが、現在の日本にはアーキヴィスト養成に必要な知識、技術を蓄積し、それを広く伝える場はほとんど存在しない。そうした中で、事業運営がどのようなスタッフによって行われ、どう組織されているのか。委託スタッフやボランティアスタッフ、人材養成の問題も含め聞き取りを行った。③ 施設概要…映像アーカイブと一口にいても規模や設備は様々である。先の設立の背景、理念と共に実際の設備、利用状況、機材のメンテナンス等についても聞き取りを行った。④ 収集・保存概要…何を収集し、どのような形態で保存するのか。収集方針の決定の過程や予算、データベース作成について聞き取りを行った。⑤ 公開状況…保管されている映像すべてが公開されるわけではない。どういった形態(劇場ホール、ミニシアター、ビデオブース等)で、どのような企画が立てられ、どのくらいの頻度で公開がなされているか。また、映像の館外貸し出しや、個人による視聴の依頼についてどう対応しているか、映像の公開にまつわる権利処理についても聞き取りを行った。⑥ 他の文化施設との関係…運営上、連携関係にあるのかどうか。差別化を意識しているのかどうか。また、地域の映画館といった商業施設との調整がどのようになされているか聞き取りを行った。⑦ 今後の事業展開…今後どのような方針のもとに事業を展開する予定か聞き取りを行った。⑧ 日本の映像アーカイブ全体に関する所感…日本の映像アーカイブ全体の現状をどのように捉えられているかについて聞き取りを行った。

■ 調査結果

施設の規模や職員数等が大きく異なるなど、国内の映像アーカイブを一概に比較することができない(また紙幅の都合上全てを列挙、詳述することができない)が、今回の調査結果を簡単にまとめると以下ようになる。

- ・財政難による収集費削減によって収集方針の見直しが必要となってきた。
- ・運営母体が地方自治体の場合、管理職の移動サイクルが早いため、組織内で統一したアーカイブの理念、活動について理解を得るのに時間がかかる、もしくは困難。
- ・映画館等の商業活動を阻害することがないよう、直接興行組合との調整を行いながら上映企画が立てられている施設もある。
- ・フィルムのメンテナンスには、フィルム現像会社を退職した技術者を顧問として迎える例が多い。
 - ・映像専用の保管庫がなく、他の史料と共に保管されているため適切な温度・湿度で管理することができないか、専用の保管庫であっても映像に適した温度設定が設備上行えないところがある。
- ・フィルム・ライブラリー(教育用の視聴覚機器、フィルム等の貸し出しを行う)の機能を引き受けつつ事業を展開している映像アーカイブも存在する。
- ・映像アーカイブの理念についての理解を広めていく必要性を感じているアーキヴィストが多い。
- ・人手不足によって手をつけられない作業が多いのが現状。

以上の調査をふまえ、歴史的なパースペクティブのもと考察を進め、2005年1月提出予定の修士論文において本研究の全容を発表する予定である。

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版者、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

①立教大学文学研究科比較文明学専攻紀要(投稿予定)

④修士論文(2005年1月提出予定)